



## 11.1.2 名寄本線の歴史

### 11.1.2.1 路線統合前の歴史

元々名寄線と湧別線という 2 つの路線が存在し、この 2 つの路線が統合され名寄本線となった、という歴史がある。名寄線は石北峠・北見峠を避ける形で名寄東線、名寄西線という 2 つの路線ができ、両路線ともに少しずつ延伸し、1922 年をもってそれらが統合したという歴史を持つ。一方、湧別線は湧別軽便線の延長として、1915 年に野付牛（現在の北見駅）方面（下生田原、現在の石北本線安国駅）から社名淵（後の開盛）へ延長された路線を発端とする。この路線がその後 1922 年に軽便鉄道法の廃止により、湧別線と改称された。以下に名寄線、湧別線それぞれの年表についてまとめる。

表 11-1 名寄線の歴史

年	出来事
1919 年	名寄ー下川間（16.5km）が名寄線として開業、上名寄・下川の各駅を新設する。
1920 年	下川ー上興部間（22.4km）が延伸開業する。
1921 年	中湧別・興部間（54.1km）が名寄東線として開業し、名寄ー上興部間を名寄西線に改称する。
	上興部ー興部間（28.9km）が延伸開業し全通。瀬戸牛・中興部・宇津の各駅を新設し名寄東線を名寄西線に編入して名寄線として統合する。
1923 年	名寄線を名寄本線と改称する。

Wikipedia より筆者作成

表 11-2 湧別線の歴史

年	出来事
1915 年	遠軽ー社名淵間（4.5km）が湧別軽便線（軌間 762mm）として延伸開業、遠軽・社名淵の各駅を新設する。
1916 年	遠軽ー社名淵間を 762mm から 1067mm に改軌する。
	社名淵ー中湧別ー下湧別間（16.6km）が延伸開業し全通する。
1922 年	軽便鉄道法廃止により、湧別軽便線が湧別線に改称される。

Wikipedia より筆者作成

### 11.1.2.2 統合後

1932 年に北見峠を克服して石北線（1961 年に石北本線と改称）が全通すると湧別線は遠軽を境に分割され、遠軽ー下湧別間は名寄本線に、遠軽ー野付牛間は石北線に編入された。

1980 年に国鉄再建法が成立すると、第 2 次特定地方交通線に指定されたが、冬季の代替輸送に問題があるとして天北線・池北線・標津線（長大 3 線）と共に一時、廃止承認が保留

された。しかし、結局 1985 年に問題が無くなったとして追加廃止承認された。

国鉄分割民営化後、比較的乗降客数が多かった名寄駅ー下川駅と紋別駅ー遠軽駅間を第三セクター化して部分存続させる案が浮上した。しかし、結局鉄道としての存続は断念され、1989 年 4 月 30 日の旅客営業をもって全線廃止となった。以下に年表を記す。

表 11-3 統合後の歴史

年	出来事
1932 年	湧別線の遠軽ー下湧別間を名寄本線に編入し、名寄本線に改称する。
1934 年	社名淵駅を開盛駅に改称する。
1935 年	中湧別ー下湧別間でガソリンカー運転開始される。
1949 年	日本国有鉄道法施行に伴い、日本国有鉄道（国鉄）に移管される。
1950 年	中名寄・二ノ橋・豊野の各仮乗降場を駅に変更する。
1961 年	瀬戸牛駅を西興部駅に改称される。
1966 年	厚生病院前仮乗降場を廃止、北湧仮乗降場を新設する（厚生病院仮乗降場の代替）。
1978 年	中湧別ー湧別の貨物営業を廃止。中名寄・上名寄・二ノ橋・中興部・宇津・小向・沼ノ上・開盛の各駅の荷物取扱を廃止し旅客のみ取扱とする。
1984 年	一ノ橋・西興部・上湧別・湧別・渚滑の各駅の荷物取扱を廃止し旅客のみ取扱とする。
1985 年	第 2 次特定地方交通線として廃止承認される。
1986 年	名寄ー紋別間の最終を 1 時間以上繰上げになる。
1987 年	国鉄分割民営化に伴い、北海道旅客鉄道（JR 北海道）に移管となり、全線（143.0km）の貨物営業が廃止される。幸成・六興・旭ヶ丘・富丘・一本松・弘道・北湧・四号線の各仮乗降場を駅に、班溪仮乗降場を臨時駅に変更する。
1989 年	5 月 1 日をもって全線廃止、バス路線に移行となる。

Wikipedia より筆者作成

## 11.2 紋別駅

### 11.2.1 概要

紋別駅は、北海道（網走支庁）紋別市幸町 4 丁目にあった駅である。現在は名寄本線の廃線に伴い廃線になっている。名寄本線最大の駅であり中間駅として唯一みどりの窓口も設置されていた。また、札幌ー紋別間を直通する急行列車「紋別」や網走駅ー紋別ー興部駅間の急行「天都」も設定されていたほか、渚滑線の列車の多くが当駅まで乗り入れていた。

駅の構造としては廃止時点では単式ホーム・島式ホーム複合型 2 面 3 線を有する地上駅

で、列車交換可能な交換駅であった。互いのホームは駅舎側ホーム北側と島式ホーム北側を結んだ跨線橋で連絡した。駅舎側単式ホーム（東側）が下りの1番線、上屋を有した島式ホーム駅舎側が上りの2番線、外側が1983年時点では側線扱いの3番線となっていた。3番線の外側（西側）に旧貨物側線を2線有し、そこから行き止まりの側線も南北に各1線有した。そのほか1番線の遠軽方から分岐し駅舎南側のホーム切欠き部分の貨物ホームへの貨物側線を2線有していた。職員配置駅となっており、駅舎は構内の東側に位置し単式ホーム中央部分に接していた。ホームの有効長は120mあり、士別駅と同規格のコンクリート製の駅舎であった。

図 11-3 過去の紋別駅の様子



出所：日々のメモ帳

### 11.2.2 歴史

路線名変更、路線統合に伴い、名寄東線から名寄線、名寄本線の駅となっていくという沿革をもつ。名寄本線の全線廃止に伴って同駅を利用する路線も無くなり廃駅となるに至った。以下に年表を記す。

表 11-4 紋別駅の年表

年	出来事
1921年	名寄東線中湧別駅－興部駅間開通に伴い紋別駅開業される。
1923年	線路名が名寄本線に改称される。それに伴い同線の駅となる。
1968年	コンテナ基地が設置される。
1971年	駅舎改築。PC造駅舎となる。
1984年	貨物・荷物が取扱い廃止となる。
1989年	名寄本線の廃線に伴い廃止となる。

Wikipedia より筆者作成

### 11.2.3 廃駅後の駅周辺の状況

廃駅後も駅本屋ではJR紋別トラベルセンターが引き続き窓口営業を行ったほか、夏季の観光シーズンには駅周辺の中心市街地商業者でつくる紋別朝市運営協議会が駅駐車場やホームを会場にした観光朝市「ガリンコ朝市」を開催した。また1990年に紋別市は、中心市街地活性化を目指した大型ショッピングセンターやバスターミナル建設構想を盛り込んだ再開発計画を策定し、翌1991年には通商産業省の商業集積整備プロジェクト道内第1号に指定され、事業主体の第三セクター「紋別ニューシティ開発公社」が発足した。

紋別市は駅跡地から南方の鉄道跡地を市道「メモリアル通り線」として再整備し、1995年には機関車の動輪を模した記念碑を建立。同年7月にはバスターミナルなどが入る紋別市交流センターがオープンした。

しかし駅跡地の大半を占めるショッピングセンターなどを盛り込んだ再開発計画については、バブル崩壊後の景気低迷と見通しの甘さから方針が二転三転するなど迷走し、最終的に市は1998年に建設

断念を正式に決定した。のちショッピングセンターの代替施設として2003年、観光商業施設と温泉施設を併設した「オホーツク氷紋の駅」が開業。施設正面には鴻紋軌道の記念碑が設置され、同軌道をモチーフにヒット曲「銀色の道」を作曲した作曲家、宮川泰を招いて除幕式が行われた。

図 11-4 現在のメモリアル通り線



出所：4travel.jp

## 11.3 渚滑線

### 11.3.1 概要

渚滑線とは日本国有鉄道が運営していた鉄道路線である。紋別市の渚滑駅で名寄本線から分岐し、紋別郡滝上町の北見滝ノ上駅までの34.3kmを結んでいた。1980年の国鉄再建法の施行を受けて特定地方交通線に指定され、1985年4月1日に廃止された。

駅数は12駅で軌間は1067mmの狭軌、全線単線の路線であった。運行形態としては全線通し列車は下り7本、上り6本で運転されていた。また、朝に休日運休の渚滑発上渚滑行の途中無停車列車が設定されていた。

図 11-5 渚滑線路線図



出所：大日本ノスタルジィ鉄道 渚滑線

### 11.3.2 歴史

渚滑線は元々沿線の資源開発を目的に軽便鉄道法により計画され、1923年に全線が開業した。当初は北見滝ノ上駅から西興部方面への路線も計画されていたが、石北線の上川駅と

接続する予定線計画へと変更され、西興部方面への路線延伸はなくなった。しかしながら石北線の上川―遠軽間の着工により、上川―北見滝ノ上間の路線建設の意義が薄れることとなり、北見滝ノ上駅以降の延伸は着手されなかった。

1980年に国鉄再建法が成立すると第1次特定地方交通線に指定され、1985年4月1日をもって全線廃止となり、北紋バスのバス路線へ転換された。以下年表をまとめる。

表 11-5 渚滑線の歴史

年	出来事
1923年	渚滑―北見滝ノ上間(34.3km)を渚滑線として開業する。下渚滑駅、中渚滑駅、上渚滑駅、滝ノ下駅、北見滝ノ上駅が新設される。
1924年	濁川駅を新設する。
1955年	十六号線仮乗降場、奥東仮乗降場、雄鎮内仮乗降場を新設する。
1956年	元西仮乗降場を新設する。
1978年	全線の貨物営業が廃止される。
1981年	第1次特定地方交通線として廃止が承認される。
1985年	全線が廃止、北紋バスのバス路線へと転換される。

Wikipediaより筆者作成

## 参照 HP

・ Wikipedia

「渚滑線」

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B8%9A%E6%BB%91%E7%B7%9A>

「名寄本線」

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%90%8D%E5%AF%84%E6%9C%AC%E7%B7%9A>

「紋別駅」

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%B4%8B%E5%88%A5%E9%A7%85>

・ goo ブログ <http://blog.goo.ne.jp/okui-m/e/6797a033b9a8d454ea923d51ee35c76e>

・ 大日本ノスタルジィ鉄道 渚滑線

<http://www.nihonkai.com/railroad/shokotsu/shokotsu.html>

・ 大日本ノスタルジィ鉄道 名寄本線

<http://www.nihonkai.com/railroad/nayoro/nayoro.html>

・ 廃線駅 Report <http://www.geocities.jp/xxreport2/repo/nayor.html>

・ 日々のメモ帳 [http://s.webry.info/sp/futures.at.webry.info/201008/article\\_4.html](http://s.webry.info/sp/futures.at.webry.info/201008/article_4.html)

・ 4travel.jp <https://4travel.jp/travelogue/10733504?page=2>

・ 紋別市 HP <http://mombetsu.jp/>

・ livedoorBlog <http://blog.livedoor.jp/railart/archives/1650968.html>

